ポスター

術後遠隔期（発達）

座長:桑原 直樹 (岐阜県総合医療センター)
2015年7月16日(木) 17:20 〜 17:50 ポスター会場 (1F オリオン A+B)
I-P-089〜I-P-093
所属正式名称：桑原直樹 (岐阜県総合医療センター　小児循環器内科)

[I-P-093]新生児期に Arterial switch手術を施行した大血管転位症における術前経腸栄養が術後の発達に与える影響

○海老島 宏典[1], 黒嵜 健一[1], 三宅 啓[1], 阿部 忠朗[1], 坂口 平馬[1], 北野 正尚[1], 帆足 孝也[2], 鍵崎 康治[2], 市川 肇[2], 白石 公[1]
(1.国立循環器病研究センター　小児循環器科,　2.国立循環器病研究センター　小児心臓外科)
キーワード：大血管転位, 経腸栄養, 体重増加

【背景】不安定な血行動態や壊死性腸炎の危険性等により先天性心疾患患者の経腸栄養管理方法は確立していない。【目的】術前の絶食が成長に与える影響を調査した。【方法】2011年1月から2014年12月に当院で新生児期arterial switch手術(ASO)を施行した大血管転位(TGA)の25例(男18例、女7例)を術前経腸栄養有群（ M＋群）と無群（ M－群）に分類し術後挿管期間、カテコラミン投与期間、入院期間、術後体重増加を診療録より後方視的に検討した。【結果】25例の平均出生週数 38.5週、平均出生体重 2870 g、 Apgar score5分(AS)中央値8、 平均手術日齢 6.8日であった。 M+群18例と M—群７例の出生週数、出生体重、手術日齢、手術時体重、 ASに有意差はなかった。 M+群の平均哺乳期間は４日間、手術前日平均投与カロリーは M+群 51.9 kcal/kg/日（経腸栄養カロリー37.0 kcal/kg/日）、 M－群 25.2 kcal/kg/日と M＋群で有意に高かった（ p＜0.01）。術後血行動態良好だった18例では、 M+群（13例）、 M－群（５例）の両群間に術後挿管期間、カテコラミン投与期間、入院期間には有意差はなかった。両群間の体重は術後１ヶ月（ M＋群 2960±447g, M－群 2554±265g）、術後６ヶ月（ M＋群 7957±879g, M－群 7032±1054g）と有意差はないが M+群で高値だった。しかし６ヶ月間の1日あたりの体重増加は M＋群：28.3±3.9g, M－群：22.3±4.6gと M＋群で有意に高かった (p=0.04)。【結語】術前経腸栄養の有無は新生児期 ASO術後成長の予測因子となる可能性がある。

©特定非営利活動法人 日本小児循環器学会